

3-2-4 施工計画／調達計画

3-2-4-1 施工方針／調達方針

(1) 基本事項

- 1) 日本政府の閣議・決定を経て、無償資金協力に関し、日本国政府と「ラ」国政府との間で交換公文（E/N）が締結される。
- 2) 交換公文（E/N）の締結により、正式に日本が援助をコミットすることとなり、具体的な実施に移る。
- 3) 締結後は日本国籍を有するコンサルタントと「ラ」国政府との間で実施設計・監理契約を結び、ただちに詳細設計作業に入る。

(2) 実施設計

- 1) 設計はまず実施主体と施設（建築、設備）及び機材等に関して、基本設計の詳細な確認業務から始めることが効率的である。
- 2) 設計期間中に、日本国内及び「ラ」国内にて各々十分な技術的協議を重ねる。
- 3) ルアンプラバンについては、UNESCO 世界遺産事務所との確認・調整を行いつつ実施設計を進めると共に、承認を得る必要がある。
- 4) 設計期間については約3ヶ月で効率良くまとめる。

(3) 入札

- 1) 入札は、国際協力機構の入札業務ガイドラインに沿って行われる。
- 2) 本件で扱う機材は、施設規模に対して数量が小さく、また、その内容は教育用の機材と家具等である。従って入札は施設建設と機材をあわせた形で日本の建設会社または建設会社と商社のコンソーシアムを対象として行うことを予定している。
- 3) 入札執行者は実施主体であるが、国際協力機構の指導を得て、コンサルタントが行う。

(4) 建設

- 1) 「ラ」国での現地調査結果から、品質及び生産量とも問題のない建設資機材に関しては、可能な限り「ラ」国内での調達を検討し、コストの低減、メンテナンスのし易さを図る。

- 2) 建設労務計画にあたっては、現地業者の技量及び現地の熟練工、半熟練工の労務水準については一部に不十分な面も見受けられる。よって日本の業者が元請けとして、施工管理することにより本工事の品質を保つことが重要である。

(5) 実施体制（事業実施主体）

本無償資金協力事業の実施体制については、「ラ」国側の責任機関は保健省（MOH）であり、実施機関は組織人事局下の対象6校、つまり医療技術短期大学（CHT）、ウドムサイ保健学校、ルアン普拉バン保健学校、カムアン保健学校、サバナケット保健学校、チャンパサック保健学校である。

「ラ」国各機関と日本国側コンサルタント及び請負業者との関係は下図の通りである。

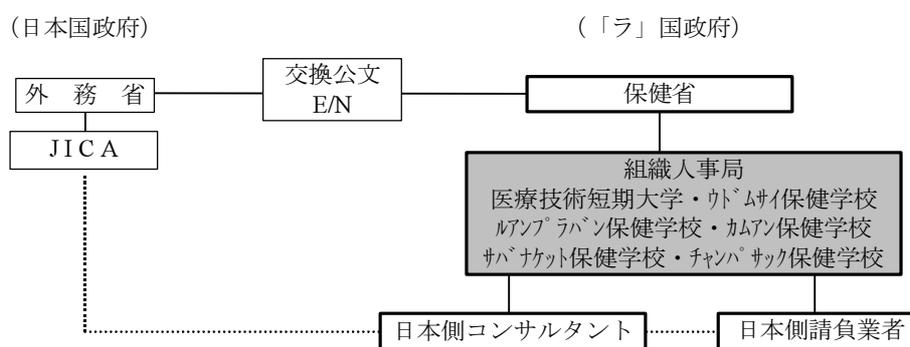


図 3-5 実施体制

3-2-4-2 施工上／調達上の留意事項

- (1) 「ラ」国の建設業者の状況については、施工実績や財務的には問題ないと考えられるが、技術者のレベルは決して高いとは言えず、施工計画書や施工図を作成することに慣れていない。技術的なレベルの詳細な確認とともに、現地技術者に対する技術指導が必要と考える。
- (2) 本件の実施にあたっては、無償資金協力の基本原則に従い、入札により選定された日本の建設会社が建設を担当し、現地雇用の建設労働者に対し指示して施工を進める形となる。従って、施工能率を上げ、施工上のロスを少なくするためには、優秀なスーパーバイザーの雇用、十分な労務管理、現場の指導を行う必要がある。

労務者事情は、比較的に良好であるが、工事種目によっては熟練工が不足することが予想されるので、早めに Foreman 及び Supervisor クラスの投入を検討すべきであり、必要に応じて第三国人の投入も検討する。又、地方都市間の労務者事情の格差・ばらつきを調整し、平均的な技術レベルを確保することが肝要である。ルアンプラバン県の世界遺産登録に指定された建物の改修工事については大工等の SV 専門技術者の投入も検討する。

- (3) 工程計画の策定に当たっては、「ラ」国の雨期（5月～10月）を考慮する。基本的にこの時期の基礎工事や、土工事は避けることとして、全体工程表を検討する。基礎工事の遅れをさける

ため、土工事は根切り図や施工計画書に基づき周到に計画する。また、雨によるアクセスのぬかるみや、川の氾濫等による道路遮断により、予定通り材料が現場に搬入できない場合があるので、注意を要する。

- (4) 建設に関する基準及び法規は、「ラ」国の基準に従うことを基本とするが、「ラ」国にはスタンダードの施工令細目の明示はないため、場合によっては、日本、BSあるいはタイ等の基準を現地の状況を考慮した上で適用するものとする。
- (5) 施設建設工事と各種機材の据付、設置時期等の詳細な工程調整が必要である。
- (6) 本案件の対象サイトは、全て既存校の構内にあるため、いずれの学校も、構内には教室、図書館、実習室及び学生寮等があり、工事中の振動・騒音やほこり等による学内及び周辺施設の影響を最小限とする施工方法の採用を検討し、環境保全対策には十分に留意する。
- (7) 各対象敷地は少なくとも復員 8m 以上の道路を一本有し、アクセスに問題はない。但し、工事期間中は近隣住民の安全を確保し、構内においては学生や、学校関係者の動線分離を図り、仮設構内道路や仮囲いの計画も検討する。また既存道路等の破損を防止するための養生を行う。

3-2-4-3 施工区分／調達・据付区分

日本国政府の無償資金協力が実施された場合、全体事業のうち日本側が負担する範囲と「ラ」国政府が負担する範囲を下表に示す。

表 3-15 負担範囲

| 日本側負担分 | 「ラ」国側負担分 |
|---|---|
| (1) 建築工事 構造躯体、建築仕上げ、家具等 | (1) 整地工事 a) 敷地準備工事（工事敷地内の既存施設・構造物・樹木等の撤去、整地工事） b) 工事中仮設電力、給水等の取口確保 c) 敷地内電線、水道管の移設 d) アクセス道路の確保 |
| (2) 電気設備工事 動力・幹線設備、電灯・コンセント設備等 | (2) 外構工事 セキュリティフェンスの建設、造園、植栽、その他日本側工事分に含まれないもの |
| (3) 基幹工事及び設備工事 a) 給水工事 建物内及び敷地内すべての給水工事 b) 排水工事 敷地内最終枡までの配管工事 c) 排水処理設備 d) 消火設備 e) 電力設備 引込み線以降受電盤、配電盤及び建物内配管配線工事 h) 敷地内の外灯 i) 空調設備 j) 機械換気設備 | (3) 基幹工事 a) 給水工事 既存給水管より計画敷地内給水バルブまでの引き込み工事（既存管の修復含） b) 一般排水工事 敷地内取り付け枡から既存排水路までの既存配水管敷設工事（既存管の修復含） c) 電力供給工事 既存電柱の移設、及び計画敷地内指定場所までの電力引き込み工事 |
| (4) 外構工事：構内通路 | (4) 日本側負担分に含まれない一般家具 (5) その他手続き a) 「ラ」国政府への許認可等の手続き b) 確認申請手続き、各設備接続申請手続き、関税、通関手続き、及び免税措置等 c) A/P 等における手数料等 (6) 維持・管理・運営に要する費用 (7) 日本人及び第三国工事関係者に対する関税、国内税などの課税金の免除措置 (8) 日本人技術者の「ラ」国出入国に対する便宜供与 (9) 日本側負担分以外の全ての費用 |

3-2-4-4 施工監理計画／調達監理計画

(1) 基本方針

本計画においては、5ヶ所における現場における建築及び設備工事の品質管理及び調整業務を徹底して行うため、常駐監理者（建築を専門分野とする）1名を配し、工事全体の調整を図ると共に、現場監理業務が繁雑となる重要な時期には、建築担当者が現場に入り常駐管理者のサポートを行うものとする。また、各種工事（躯体工事、建築設備工事等）の進捗状況にあわせて重要な時期には各専門の監理者がスポット監理を行い、着工時、竣工検査時には業務主任が検査・監督を行う。

表 3-16 工事監理者の要員計画

| 監理者名（専門分野） | 期間（国内作業を含む） |
|------------------|-------------|
| 常駐監理者（建築） | 12.0ヶ月 |
| 業務主任者 | 計 約 2.0ヶ月 |
| 建築工事（建築計画） | 計 約 5.0ヶ月 |
| 建築工事（構造計画） | 計 約 1.0ヶ月 |
| 建築工事（設備計画－電気、機械） | 計 約 2.5ヶ月 |

建設工事の品質を確保し、適正な建設費により、安全面も確保した上で、工期内で竣工できるように、施工方法の選定、労働力や施工機械の確保、資材の発注・搬入、安全面の確認等、総合的に判断しながら工程監理を行う。また、相手国側負担工事の遅延が本工事の進捗に影響するような場合は、必要に応じて相手国側負担工事の促進を図る。

さらに、前述した「ラ」国における建設事情及び施工上／調達上の留意事項を踏まえて、適切な工事工程・施工監理計画を策定する。

(2) 業務分担内容

常駐監理者は、建築工事及び現地での機材調達・据付工事との工程確認・調整、及び施工計画書・施工図承認等の業務を担当する。また、東京本社側の監理体制は、ヒアリング・定期報告等による設計監理業務の品質管理、JICA 本部に対する工事進捗状況等の報告・諸手続き及び日本調達機材等の工場・船積み前検査等の実施を担当する。

(3) 証明書の発行

建設資材、機器などの輸出、施工業者への支払い、工事の完了、瑕疵担保期間の終了等にあたって必要な証明書を発行する。

(4) 報告書等の提出

施工業者が作成する工事の月報、完成図書、完成写真等を検査し、「ラ」国政府、JICA 等に提出する。また、工事終了後、「完了届の記載要領」に従って完了届を作成し、JICA に提出する。

3-2-4-5 品質管理計画

D/D 時においては基本設計内容を踏まえ、「ラ」国建設事情及びメンテナンスコストを考慮した現地材料の納まり、工法について詳細な検討を加えた実施設計図を作成する。また、仕様書については、工事の高品質を確保するため、日本の建築工事標準仕様書、JIS、BS、ASTM等を参考・補足し、作成する。

工事期間中においては、施工業者より提出される工事計画書、工程表、施工図が契約書、仕様書に適合しているかを審査し、承認を与える。

現場において建設材料及び施工の品質が仕様書に適合しているか、各種工事着工前に施工業者より提出される施工計画書を審査し、施工計画書について承認を与える。また、各種工事着手後は施工計画書に基づき適宜、検査を実施し承認を与える。施工計画書に基づき重点監理項目を定めて、適宜、検査を行う。

調達材料については、メーカー保証書の確認の他に、適宜抜き打ち検査等を実施し品質を確保する。

1) 土工事

基本設計調査時に実施したボーリング調査結果から、本件対象建設用地は良好な地盤状況であるが、雨期の時期を考慮した工程計画、養生計画を策定する。

2) 鉄筋工事

施工業者より提出されるミルシート等を確認するとともに、品質を確保するため、適宜、抜き打ち検査による引張り試験等を行う。

3) コンクリート工事

工事現場内においてミキサーによりコンクリートを練り打設する。このため、品質管理が重要であり、主な監理方法（監理項目、検査方法等）を以下に示す。

① コンクリート材料

| 材料 | 管理項目 | 検査方法 |
|---------|---------|-----------|
| セメント | 水和熱など | 溶解熱方法 |
| 砂・砂利・碎石 | 粒度 | ふるい分け |
| | 絶乾比重 | 比重及び吸水率試験 |
| | アルカリ反応性 | アルカリ反応性試験 |
| 水 | 有機不純物など | 水質試験 |

② 試し練り時検査管理項目

| 管理項目 | 検査方法 |
|-----------------|---------|
| 構造体のコンクリートの推定試験 | 圧縮試験機 |
| スランプ | スランプコーン |
| コンクリート温度 | 温度計 |
| 空気量 | 圧力計 |
| 塩化物量 | 塩分測定器 |

③ コンクリート打設前検査管理項目

| 管理項目 | 検査方法 |
|-----------------|------------|
| 練り混ぜから打設終了までの時間 | 練り混ぜ完了時刻照合 |
| スランプ | スランプコーン |
| コンクリート温度 | 温度計 |
| 空気量 | 圧力計 |
| 塩化物量 | 塩分測定器 |

④ 工程内検査の管理（コンクリート打ち上がり精度検査）

| 管理項目 | 検査方法 |
|-----------------|----------|
| 構造体のコンクリートの推定試験 | 圧縮試験機 |
| 仕上がり精度（建入れ） | スケール |
| 仕上がり精度（スラブ水平度） | レベル・スケール |
| 仕上がり状態 | 目視 |

3-2-4-6 資機材等調達計画

(1) 調達計画

建設資材については現地調達を前提とし、コストの低減及びメンテナンス費用負担の少ない資材を選定することを基本方針とする。

工所用資機材調達の調達区分を下表に示す。「ラ」国の国内生産で供給可能な建設資材は、年々増加の一方をたどり、現在ではタイの輸入材を含めると一般的な建築資材はヴィエンチャン特別市内の調達がほぼ可能である。プロジェクト全体の建設コスト低減化を図る為には、現地建設資材の採用や現地業者、サプライヤーの活用が避けられない。しかしながら、同時に品質を確保できる仕様、グレードの設定が肝要であることから、第三国調達品とのバランスを十分検討した計画とする。

表 3-17 各種材料別調達計画

| 資機材 | 現地調達 | 日本調達 | 第三国調達 | 備考 |
|-------------|------|------|-------|----------------------------------|
| 建設資材 | | | | |
| 砂・砂利 | ○ | | | |
| セメント | ○ | | (○) | |
| レンガ | ○ | | | |
| 型枠・木材 | ○ | | | |
| 鉄筋 | ○ | | (○) | |
| 鉄骨 | ○ | | (○) | |
| 木製建具、金属建具 | | | ○ | |
| 硝子 | | | ○ | |
| 防水材 | | ○ | | |
| 耐水合板 | ○ | | | |
| タイル | | | ○ | タイ産 |
| 仕上げ材 | | | ○ | 石綿吸音板、ケイカル板等 |
| 塗料 | ○ | | (○) | |
| 屋根材 | ○ | | ○ | ルアンプラパン校：現地産ケイカル 他4校：セメント系タイル |
| 雑金物 | ○ | | ○ | |
| 防潮板 | | ○ | (○) | |
| 設備機材 | | | | |
| 分電盤 | | | ○ | |
| 照明器具 | | | ○ | |
| 電線・電線管 | | | ○ | |
| 配線器具 | | | ○ | |
| PVCパイプ | | | ○ | |
| 衛生器具 | | | ○ | |
| 設備材（配管、弁類） | | | ○ | |

表 3-18 建設機材調達計画

| 機材名 | 現地調達 | 日本調達 | 第三国調達 | 備考 |
|---------------|------|------|-------|----|
| バックホー | ○ | | | |
| ブルドーザー | ○ | | | |
| ダンプトラック | ○ | | | |
| パイプレーションローラー | ○ | | | |
| タンパー | ○ | | | |
| 水中ポンプ | ○ | | | |
| 鉄筋加工機 | ○ | | | |
| コンクリートポンプ車 | ○ | | | |
| 溶接機 | ○ | | | |
| トラッククレーン(25t) | ○ | | | |
| 自家発電機(50KVA) | ○ | | | |
| 仮設足場支保工（木製） | ○ | | | |

(2) 調達方法

第三国調達の調達先としては、輸送経路・工程・入手資材の品質などを検討するとタイ国が中心になると思われる。資材によっては中国製品の方が安価になることも考えられるが、品質保証を確認できる条件を確立しなければならない。

日本及び第三国から輸入がある場合は、いずれもバンコクからの陸上輸送となり、バンコクからの陸上輸送に1週間程度、通関手続きに1週間程度の日数を要する。輸送日数はサイトによって異なってくるが、この期間を見込んだ調達計画をたてる必要がある。所要日数等は以下の通りである。

1) 日本調達

東京港よりバンコク港経由となり、全工程は約2ヶ月を見込む必要がある。

バンコク港からは、陸路でラオスとの国境まで輸送し、その後、建設現場まで陸送することになる。

北部のウドムサイ校とルアンプラバン校については、ヴィエンチャン経由（バンコク→ノンカイ→タナレーン→ヴィエンチャン）調達となり、タイ国と隣接している南部カムアン校、サバナケット校、チャンパサック校については、チャンパサック経由、或いは直接輸入することになる。

2) 第三国調達

主にバンコク調達となるため、上記同様、バンコクより国境、さらにサイトまで陸路で輸送する。全工程約2週間と考えられる。

3) 免税措置関係

「ラ」国における免税措置は、あらかじめ「ラ」国内で手続きを行う必要がある。タイ国内では、「ラ」国向け輸出ライセンスを有する輸送業者に委託する必要がある、保税倉庫にて（ヴィエンチャン行きの場合にはタナレーンの保税倉庫）一旦荷下ろしを行い、通関後は「ラ」国側の輸送業者がサイトまで輸送することになる。輸入品の現場到着までは、通常は海上輸送期間、陸上輸送期間、輸入関税の手続き及び通関手続き・現場搬入期間を合計した日数となる。

3-3 相手国側分担事業の概要

本プロジェクトが実施された場合、「ラ」国側は以下の事項を負担すること、また実行することが基本設計調査時に「ラ」国側と合意された。

3-3-1 相手国側負担とされた手続き事項

- 1) 免税
 - － 無償資金協力の下で本プロジェクトのために購入された資機材の迅速な免税措置、及び通関、国内輸送を確保する。
 - － 認証された契約書に基づき、調達される資材及び業務に関し、計画実施に携わる日本人の「ラ」国内で賦課される関税、国内税及びその他の財政課徴金を免税する。
- 2) 便宜供与
 - － 認証された契約書に基づき、本計画に携わる日本人の「ラ」国への入国、滞在に必要な便宜供与を行う。

3-3-2 相手国側分担事業

本件実施における「ラ」国側の分担事業は、以下の通りである。

- 1) 事業実施前
 - － 建設工事の開始前に、工事の支障になる既存建物、樹木等を撤去する。
 - － 対象敷地内を整地する。
 - － 既存道路及びゲートを移設し、必要に応じて建設工事のためにアクセス道路を建設する。
 - － 建設工事用の仮設電力、及び仮設給水管の敷設工事を行い、取口を確保する。
 - － 計画敷地内に設置されている既存給水管・電力引込み線の撤去移設をする。
- 2) 事業実施中
 - － 敷地周囲の施設用セキュリティフェンスを建設する。
 - － 敷地内の造園工事、植樹工事を行う。
 - － 施設内の事務用家具、カーテン等の購入及び設置工事を行う。
 - － 電気、水道、排水等の付帯施設の計画敷地までの引き込みを行う。
 - － プロジェクトの実施に必要な許可、免許等を遅滞なく発行する。
- 3) 事業実施後
 - － 施設の維持、管理、運営に要する費用を確保する。

3-3-3 対象校別の敷地準備工事及び基幹工事

本件においては、対象施設が複数校にわたるため、以下に、対象校別に状況の異なる「敷地準備工事」及び「新施設用の基幹工事」に関する相手側負担事項を示す。この件に関しては、保健省及び各学校に伝達済みであり、必要予算の確保を依頼した。県保健局の管轄下にある2校（ウドムサイ校とカムアン校）については、保健省側で県政府側と調整して手当てするとの説明があった。

表 3-20 敷地準備工事及び基幹工事に関する先方負担分

| 学校 | 項目 | 内容 |
|--------------|-----------|---|
| ウドムサイ保健学校 | 新施設用の基幹工事 | a) 既存電線から新施設内受電設備への電線引込み工事 b) 市内給水管から敷地内への引込み管の追加工事 |
| ルアンパラーバン保健学校 | 敷地準備工事 | a) 対象サイトの整地工事 b) 対象サイト内の配水管の移設工事 c) 教室棟改修工事中における仮教室の手配 |
| | 新施設用の基幹工事 | a) 学校への引込み電線の増設工事（新築用及び改修棟用の容量追加） b) 市内給水管から敷地内への給水管の引込み工事 |
| カムアン保健学校 | 敷地準備工事 | a) 教室棟及び実習棟の改修工事中における仮教室の手配 b) 対象サイト内の電線の移動工事 c) 対象サイト内の電話線の移動工事 |
| | 新施設用の基幹工事 | a) 既存電線から新施設内受電設備への電線引込み工事 b) 市内給水管から敷地内への給水管の引込み工事 c) 学校敷地から市内下水側溝への排水側溝の敷設工事（2箇所） |
| サハナケット保健学校 | 敷地準備工事 | a) 旧講堂棟の解体・撤去工事、戦車の撤去 b) 改修工事中における仮実習室の手配 |
| | 新施設用の基幹工事 | a) 既存電線から新施設内受電設備への電線引込み工事（新規） b) 市水管から敷地内への引込み管の交換工事（容量拡大） c) 学校敷地から市内下水側溝への排水側溝の敷設工事（1箇所） |
| チャンパサック保健学校 | 敷地準備工事 | a) 改修工事中における仮教室と学生寮の手配 |
| | 新施設用の基幹工事 | a) 学校への引込み電線の増設工事（容量追加） b) 敷地内から下水公共枡までの排水管敷設工事（4箇所） |

敷地準備のための工事の予算は、2004年度の保健省及び各県保健局の予算（予算年度は10月～）で用意される予定であり、そのための手続きは5月から行われる予定である。工程計画通りに工事を進めるためには、「ラ」国側での作業が予定通りに実施されることが前提となっており、この重要性については「ラ」国側にも十分理解されているが、日本側からも進捗状況をモニタリングしていく必要がある。

3-4 プロジェクトの運営・維持管理計画

3-4-1 施設／維持・管理計画

各校における日常的なメンテナンスに関しては、学校ごとの責任で行われている。基本的には学生による清掃と教職員による管理と簡単な修繕が行われ、必要な場合には外部業者への委託を行っている。ただし、既存施設の維持管理状況には、対象校により差があるため、学生による清掃の徹底も含めてその維持管理体制の確立を学校側に提言した。

「ラ」国保健省下の施設は、同省財務・計画局下の「保健資産管理・施設室」が基本的に管理しており、1名の建築家、3名の建設エンジニアを含む8名のスタッフで、施設の新規建設や大規模な改修に関する設計・入札段階での技術的なサポートを行っている。本件の対象校に関しても、技術的なアドバイスやサポートを受けることは可能である。

また、メンテナンス予算も十分とは言えず、実際には学校ごとに学生からの学費の徴収や父母からの寄付など、それぞれに工夫して賄っている状況である。保健省側では、必要予算の確保と共に、この学校運営管理方法に関する学校間の情報交換を行って、各校の運営状況の改善につなげることを計画している。

3-4-2 機材／維持・管理計画

(1) 保健学校における保守・修理

一般的には機材が故障したらその機材の担当教師が校長に報告し、校長の判断で修理予算を請求する。しかし、担当者が決まっていない場合や校長からの要請があがらない場合もあり、故障したまま放置されることが多い。定期的なメンテナンスが行われているところは皆無であるが、問題が発生したときに放置するのではなく、きちんと修理を行っている例もある。例えば、カムアン保健学校ではコピー機のメンテナンスをタイの会社に依頼し、1996年に5,400パーツ、98年に8,500パーツ、2001年に14,000パーツを支払っている。コピー機などの大型の機材では、ヴィエンチャンにあるサービス会社まで送付する費用もかなりの金額になる。特に南部のカムアン、サバナケット、チャンパサックにおいては、教材作成機器や視聴覚機器の修理のためには、地理的にもタイの会社に依頼する方が部品入手も容易であり安くつくことも多い。

「ラ」国では医療機材は製造しておらず、他国より輸入している。医療機材メーカーの代理店はヴィエンチャン市内に数社ある。AV機器、事務機器に関しては日本のメーカーの代理店がヴィエンチャン市内に複数存在しているが、いずれも、メンテナンス、消耗品・スペアパーツの調達はほとんど隣国のタイに依頼している。

(2) Medical Equipment Service Center (MES)

保健省の食品薬品管理局（Department of Food & Drug）の傘下に置かれている医薬品供給センター（Medical Products Supply Center: MPSC）が「ラ」国における医薬品・消耗品の調達、機材保守・修理サービス、保守要員の育成をおこなっている。組織は下図のとおり4セクションに分かれており、医療機器修理部門（Medical Equipment Repairing Unit）の一部門である医療機器サービス（MES：Medical Equipment Service Center）が医療機器の保守・修理及び保守要員の育成を行っている。

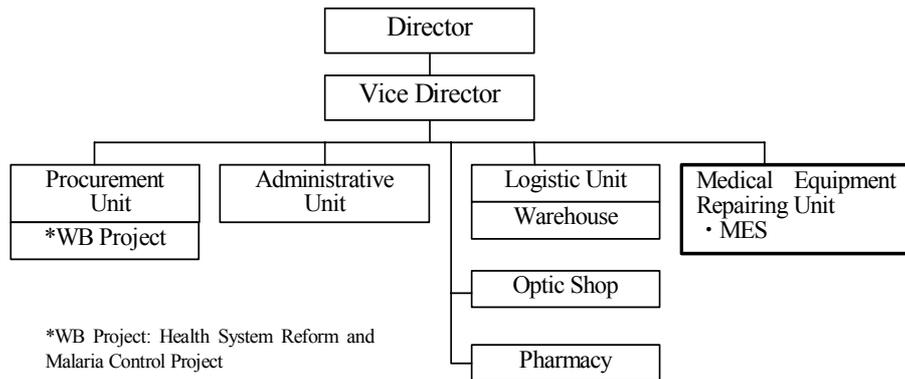


図 3-6 Medical Products Supply Center の組織図

MES の機材修理は、中央病院、県病院及びいくつかの郡病院を含めたヘルスセクターに優先順位が置かれている。しかし、依頼されればヘルスセクターに限らず他のセクターにおいても、また、公立、私立を問わずサービスを提供している。修理費用は修理内容や時間によって異なるが、20,000Kip～300,000Kip（別途スペアパーツ費が必要）で行っている。

サービス技術者の研修は県病院や中央施設から選抜されたエンジニアに対して行っているが、将来的には郡病院レベルまで行う予定である。研修期間は通常 2-3 ヶ月である。2002 年の研修費用は 400,000Kip（教材費・工具費・講師への謝礼を含む）でドナーからの援助で実施した。

表 3-21 MES で修理・研修実績以下のとおりである。

| 年度 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 |
|---------|------|-------------------|------------------|-----------|
| 修理件数 | 109 | 122 | 90 | 83 |
| 研修者数（人） | 15 | 16 | 13 | 8 |
| 研修受講者所属 | 中央施設 | 7 県から 11 名、他は中央施設 | 6 県から 9 名、他は中央施設 | 8 県から 8 名 |

年々修理件数が減ってきている理由は、病院の予算がなく、修理する費用が払えないこと、また、MES 自体も予算確保が困難なため、各県へ訪問できないためである。各医療施設は個人あるいは近くのショップに頼むか、隣国のタイに修理を依頼したほうが安価で修理がきるので、そこで対応していることもある。しかし、実際には故障したら放置されてしまうことが多いのが現状である。

MES としては、将来的に、研修を受けたエンジニアが各県病院を中心にして県のヘルスセンターレベルまで修理ができるようネットワークの確立を目指している。研修においても、各県においてワークショップが開催できるよう保守管理体制の整備を、また、MES で研修を受けたエンジニアのフォローアップも計画している。

3-5 プロジェクトの概算事業費

3-5-1 協力対象事業の概算事業費

本計画を日本の無償資金協力により実施する場合に必要な事業費の総額は、約 5.78 億円となり、日本と「ラ」国との負担区分に基づく双方の事業費内訳は次の通りである。ただし、この概算事業費は交換公文上の供与限度額を示すものではない。

(1) 積算条件

- － 概算事業費算出
- － 外国為替レート 1US\$ = 119.07 円（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日平均）
- － 工事期間 12.0 ヶ月
- － 施工業種 日本国法人による施工会社への一括発注
- － 建設工事に必要な仮設・建設機材の持ち込み、持ち出しに対する関税及び日本側施工会社にかかる現地での各種免税措置
- － 政変、及び異常気象による大幅な工期の遅れがないものとする。

(2) 日本側負担経費

概算総事業費 約 576 百万円

保健学校 5 校及び医療技術短期大学（施設建設・改修は 5 保健学校のみ）
（建築延べ床面積：新築約 2,268 m²、改修約 2,604 m²）

| 費目 | | 概算事業費（百万円） | | |
|------|-------|------------|-------|-------|
| 施設 | 校舎棟 | 395.5 | 402.3 | 450.3 |
| | 家具・備品 | 6.8 | | |
| 機材 | | 48.0 | | |
| 実施設計 | | 125.9 | | |

(3) 「ラ」国負担経費

約 2 百万円

| 事業費区分 | 工事費 (Kips) |
|----------------------------|---------------|
| (1) 敷地準備工事（建設用地内の既存施設撤去など） | 86.5 million |
| (2) 外構工事 | - |
| (3) インフラ引込工事（水道、下水、電気） | 81.0 million |
| (4) 家具 | - |
| (5) その他（工事期間中の仮教室手配など） | 14.5 million |
| 合計 | 182.0 million |

（1US\$ = 10,480Kip : 2003 年 9 月時点）

3-5-2 運営維持管理費

(1) 対象各校における施設必要経費

本件実施後の各対象校における新築及び改修施設において必要なランニングコスト（水道光熱費）は下記の通り試算できる。（1US\$=10,480Kip）

1) 電力料金

ラオス電力公社（EDL）の供給規定によると、現行の料金設定、及び各施設の電力需要による各サイト対象施設における年間必要料金の試算は以下の通りである。

- ・基本料金： 0 US\$ / kw・月
- ・従量料金： 0.09US\$ / kwh (867Kip/kwh)・・・ EDL の 2005 年 3 月時点の予定料金

| | 従量料金 | 計画需要電力 | 負荷率 | 時間 / 日 | 日 / 月 | 月間電気料金 (US\$) | 年間電気料金 (US\$) | 年間電気料金 (概算) |
|-------------|----------|--------|-----|--------|-------|---------------|---------------|-------------|
| ウドムサイ保健学校 | US\$0.09 | 17kw | 0.3 | 4 | 22 | 40 | 484.7 | → US\$500 |
| ルアンプラバン保健学校 | US\$0.09 | 21kw | 0.3 | 4 | 22 | 50 | 598.8 | → US\$600 |
| カムアン保健学校 | US\$0.09 | 18kw | 0.3 | 4 | 22 | 43 | 513.2 | → US\$550 |
| サバナケット保健学校 | US\$0.09 | 18kw | 0.3 | 4 | 22 | 43 | 513.2 | → US\$550 |
| チャンパサック保健学校 | US\$0.09 | 25kw | 0.4 | 6 | 22 | 119 | 1,425.6 | → US\$1,100 |

2) 水道料金

ラオス水道局（NAMPA）の規定による現行の料金体系（政府関係施設）は以下のとおりであり、各サイトの新施設の水道料金は、下記の通り想定される。

| | | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1m ³ ～ 5m ³ /月 | 0.022US\$(219Kip)/m ³ | 20m ³ ～50m ³ /月 | 0.033US\$(329 Kip)/m ³ |
| 5m ³ ～20m ³ /月 | 0.03US\$(263Kip)/m ³ | 50m ³ ～ | 0.04US\$(383 Kip)/m ³ |

| | 水道使用量 / 日 (m ³) | 月間水道使用量 (m ³) | 月間水道料金 (US\$) | 年間水道料金 (US\$) | 年間水道料金 (概算) |
|-------------|-----------------------------|---------------------------|---------------|---------------|-------------|
| ウドムサイ保健学校 | 8 | 240 | 9.15 | 109.8 | → US\$110 |
| ルアンプラバン保健学校 | 10 | 300 | 11.55 | 138.6 | → US\$140 |
| カムアン保健学校 | 10 | 300 | 11.55 | 138.6 | → US\$140 |
| サバナケット保健学校 | 13 | 390 | 15.15 | 181.8 | → US\$190 |
| チャンパサック保健学校 | 22 | 660 | 25.95 | 311.4 | → US\$320 |

3) 光熱用水費総括

上記のとおり、本件の対象施設（新築及び改修施設）において、プロジェクト実施後に消費が予想される1年間の光熱用水費は下記の通りである。

| | 1) ウトムサイ | 2) ルアン普拉バン | 3) カムアン | 4) サハナケット | 5) チャンハ° サック |
|----------|----------|------------|---------|-----------|--------------|
| (1) 電気料金 | 500 | 600 | 550 | 550 | 1,100 |
| (2) 水道料金 | 110 | 140 | 140 | 190 | 320 |
| 合計 | 610 | 740 | 690 | 740 | 1,420 |

(US\$/年)

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

4-1 プロジェクトの効果

本件の実施にあたり、以下のような効果が期待できる。

(1) 直接効果

- 1) 各校の教室が新築及び改修されることにより、各校の教育環境が改善される。教室規模の見直しによる学生一人あたりの教室床面積の適正化、及び、建具や設備の変更による室内環境の改善が図られる。
- 2) 実習室と実習用機材が整備されることにより、1クラスの学生が同時に実習を行うことが可能となり、各学生が実際に実習を行う時間が増加する（これまでの30-60時間/2年コースに対して300時間/2.5年コース）。これにより学生の技術と知識の習得が促される。
- 3) 医療技術短期大学の機材を充実させることにより、看護学士コースが強化される。同コースで保健学校教員が再教育を受けることにより、各校において看護学士の資格を有する教員が増加し、保健学校における教育の質が改善される。
- 4) 実習室及び機材（デモンストレーション用、実習用、教材作成用等）が新しく整備されることにより、授業実施方法に対する教員の意識が改善され、授業の質の向上に繋がる。

(2) 間接効果

- 1) 本件の実施により、県病院や郡病院、及びヘルスセンター等に勤務する看護師及びPHCワーカーの数が増加し、サービスの質が改善される。その結果、地方部における保健医療サービス、特にPHCが充実・強化される。
- 2) 各校の図書室は周辺地域に勤務する保健医療従事者も利用可能なことから、図書室の整備により地域の医療従事者に必要な情報を提供できるようになる。

表 4-1 計画実施による効果と現状改善の程度

| 現状と問題点 | 本計画での対策 (協力対象事業) | 計画の効果・改善程度 |
|---|---|---|
| 共通 | | |
| 保健学校及び医療技術短期大学は 2003 年 10 月より共通の新カリキュラム(2.5 年制中級看護師コース)を開始しているにもかかわらず、施設・機材等の学校別教育環境に格差がある。 | 全国の 5 保健学校及び医療技術短期大学をプロジェクトの対象とする。 | 全国的に等しい教育の質が確保できる。 |
| 個々の学生が教科書を持っていない上、適当な参考図書が図書館にもないため、教師の講義ノート・配布プリントが、学生にとって重要な学習教材となっている。機材の不足により教師が適当な教材を作成できない。 | 教師が教材を作成するための機材、及び授業教材を提示するための機材を供与する。 | 適切な講義用教材の作成と学生への配布により、効率的な学習を行えるようになる。 |
| 保健学校 | | |
| 1 教室あたり学生数が多く、効率的な教授・学習が行えない。 | 1 教室あたり学生数を 60 人あるいは 50 人に設定して、整備するクラス数を算出し、不足分を増築する。 | 学生一人あたりに適切な教室床面積が確保され(教室:1.40m ² /人)、教育環境が改善される。 |
| 新しい看護師養成 2.5 年コース、PHC ワーカーコースに対応するための教室数が足りない。 | | |
| 実習室が狭く、機材が不足しているため、学生が必要十分な時間の学内実習を行えない。 | 十分な広さの実習室を整備し、さらに、不要機材保管用する準備室を設ける。 | 学生一人あたりの機材数及び実習室面積が増加する。実際の学内実習時間数が増加する。機材を活用した効率的な学内実習・授業が可能となる。 |
| 授業用機材の数が不足あるいは老朽化しており、適切な学内実習及び授業が行えない。 | 適切な看護実習用の機材を調達する。 | 30-60 時間/コース(2 年コース)→300 時間/コース(2.5 年コース) |
| 既存図書室に十分な読書・自習スペースがなく、また学生寮にも自習スペースはない。 | 十分な自習スペースを有する図書室の整備。 | 学生の自習の能率が上がる。 |
| 教室と学生寮が学校敷地内で混在しており、教育環境が悪化している。 | 生活ゾーンと教育ゾーンの分離 | 教育環境の質向上 |
| 医療技術短期大学 | | |
| 中級看護師養成コースでは助産学を十分に学べていないため、病院に勤務する看護師・学校教員の助産学に関する知識・経験が不足している。 | 看護学士コースのために、助産学に関連した実習機材を中心に供与する。 | 学士コースの学生が助産学について十分な実習を行える。 |
| 看護科を含む CHT 全学共通で利用する臨床検査科で、十分な実習が行えていない。 | 寄生虫・微生物学の実習に使用する顕微鏡等の供与 | 寄生虫学・微生物学の授業が効率的に実施できるようになる。 |

4-2 課題・提言

本件によって実現される保健学校 5 校及び医療技術短期大学に対する施設と機材の整備を、より確実に上記直接的、間接的効果に結びつけ、かつその波及効果を高めるためには、以下の諸点について「ラ」国側で検討、対応することを提言する。

(1) 看護教育のシステムの確立：

本件を教育の質の向上に確実につなげるためには、看護教育システムの確立・強化も同時に行うことが重要である。具体的には、以下の項目について「ラ」国側での取り組みが必要である。

- a) 学生の質の確保:現状では、対象各校における入学学生数は計画学生数を大きく上回っており、教育の質の低下を招く一因となっている。本件により整備する施設と機材を有効に活用し、かつ教育の質の向上につなげるためには、入学学生数を計画受入学生数に合わせて制限と同時に、入学する学生の質を保つための適正な入学試験導入がなされるべきである。
- b) 教育の質の向上：2003/04 年度から開始された看護師養成 2.5 年コースを適切に実施し、質の高い中級看護師を育成していくためには、必要な教員と教材の確保、及び教育の質を保つために必要な教員の資格の明確化が必要である。
- c) 教育成果の質の確保：保健学校の卒業生の質を一定に保つため、全保健学校に共通の卒業試験を導入し、この卒業試験の合格者のみが看護師としての職を得られるようにすること、すなわち看護師資格制度の導入が不可欠である。さらに、将来的には国家資格試験制度を導入することがより望ましい。

(2) 学校間の連携の強化：

現在、対象各校では、限られた予算で運営するための様々な取り組み行われている。本件の対象である保健学校の運営管理体制を更に強化していくためには、各校における教員の増員とアップグレード、必要予算の確保と共に、学校運営方法に関する情報交換、人事交流など、各校の連携体制の強化が重要であると考えられる。そのためには、保健省側のサポート、医療技術短期大学のイニシアチブも不可欠であると考えられる。

(3) 卒業生のフォローアップ実施：

対象各校では、学生が卒業後どこの保健医療施設でどのような契約形態で働いているか、保健省下の施設で職を得ていなければ、どのような職についているか、といった卒後の進路のフォローアップが行われていない。卒業生が学校で学んだ知識・技術を活かせる職に就くことは、「ラ」国の保健医療サービスの質向上に必要不可欠であることから、保健省は、対象各校が毎年卒業生のフォローアップ調査を定期的にも実施できるよう、適切な仕組みづくりと学校への指導を行うべきである。

(4) 保健医療従事者の地方勤務を促進するための方策：

一般に、保健医療従事者は地方の保健医療施設、特に山間僻地のヘルスセンターなどへの赴任を渋る傾向があり、地方の郡病院やヘルスセンターでは、必要な保健医療従事者を確保できない場合が多い。この状況を改善するためには、本件による地方の保健学校整備と並行して、保健省は、僻地手当での支給・赴任先での生活環境の整備・僻地赴任経験に応じた昇進の優遇等のインセンティブ導入による僻地赴任促進策を実施することが必要である。

(5) 地方に勤務する現職保健医療従事者の再訓練：

地方における保健医療施設、特に郡病院とヘルスセンターにおける医療従事者の大半は看護師であるが、そのレベルは数ヶ月の教育から3年の教育を受けた看護師まで様々である。これまでも、このような看護師の再訓練が保健省、及びドナーやNGOの支援により実施されてきている。今後は、本件によって整備する保健学校が、このような現職看護師の再訓練に定期的に活用されるよう、保健省は予算措置を講じるべきと考える。それにより、地方に勤務する医療従事者のレベルが向上することが期待される。

4-2-1 他ドナーとの連携の可能性

「ラ」国における保健医療セクターには、WHO、世界銀行、ADB、ルクセンブルク、ドイツ、ベルギーなどの各種ドナーが様々な支援を行ってきている。本件に関しては、これらのドナーとの重複はないことを確認しているが、本件の実施をより有効なものとしていくためには、他ドナーや国際機関との連携は有効である。

特に、保健セクター全般の人材育成計画の策定や看護教育の品質管理等のプロジェクトを行っているWHO、ヴィエンチャン県を拠点としつつ人材育成全体への支援を計画しているルクセンブルク、北部においてPHCワーカーの育成、県・郡病院等の整備等を行っているADB、これまでも南部で病院等の整備や現職職員の再教育を実施しており、今後は医師の教育支援を計画している世界銀行との連携は重要であると考えられる。

このような他ドナーとの連携により、本件によって整備する施設と機材が各種の人材育成活動に利用されることは、本件による効果を増大させ、地方の保健医療サービスの向上につながるものと期待される。

4-2-2 技術協力の可能性

わが国では、本件に関係して、保健省人事組織局への個別専門家の派遣、国立病院及び医療技術短期大学へのシニア海外ボランティアの派遣、保健学校学生の実習先である各県病院への青年海外協力隊の派遣などを行っており、本件の実施は、これらの活動と連携することにより包括的に「ラ」国の看護教育の質向上に寄与するものである。さらに今後は、本件の対象校である各保健学校に青年海外協力隊が派遣される予定であり、各学校における教育の質の向上に直接寄与するものと期待される。

このように、学校（教育の場）、病院（教育及び実践の場）と、政策・計画立案の場である保健省に対し技術協力による多面的・包括的支援を行うことは、上記「ラ」国側への提言に示すような看護教育システム全体の強化を実現するために非常に有効と考えられる。

4-3 プロジェクトの妥当性

本プロジェクトの無償資金協力としての妥当性は、以下の各事項から妥当なものと確認される。

- (1) 「ラ」国では、2020年までに後発開発途上国の状態から抜け出すことを目標にして国家開発に取り組んでいる。本件の実施による地方における保健医療水準の向上は、最終的には、地方における生活水準の向上、貧困削減に繋がる。
- (2) 保健セクターにおける「ラ」国の目標は、2020年までに「全ての国民がそのニーズに合致した質の高い保健医療サービスに公平かつ迅速にアクセスできるようになる」ことである。本件は、特に地方において保健医療サービスに従事する看護師・PHCワーカーの育成を行うことにより、地方における保健医療サービスの普及、質の向上に繋がる。
- (3) 地方における保健医療サービスが向上することにより、「ラ」国における人口の80%を占める地方の人々がそのサービスを享受できるようになる。
- (4) 我が国の「ラ」国への援助重点分野の1つとして「公平で健康な社会の形成」があげられており、「健康の改善」はその中の重要な開発課題のひとつである。本件の実施により保健医療従事者の質が向上し、保健医療サービスの質の改善へつながることは、我が国の援助方針にも合致するものである。
- (4) 本件の実施は、「ラ」国が2003/04年度より導入した新カリキュラムである看護師養成2.5年コースの実施を可能とするものであるが、基本的には、施設規模の拡大ではなく、教育環境の改善を目的とするものである。また、整備する施設・機材共に基本的な内容である。従って、維持管理について「ラ」国政府に過大な財政的負担を求める必要はなく、予算の確保についての問題はない。
- (5) 看護師養成2.5年コース・PHCコースの導入と並行して、看護学士コースによる現職看護師及び保健学校教員の再教育の実施、及び各学校での必要教員の確保が進められるなど、「ラ」国側による教員の質の向上への取り組みが始まっている。

4-4 結論

本プロジェクトは、「ラ」国保健セクターの長期計画に沿ったものであり、2020年までに「全ての国民がそのニーズに合致した質の高い保健医療サービスに公平かつ迅速にアクセスできるようになる」という国家目標の達成に繋がるものである。

特に、地方における保健学校の整備を行うことは、地方に勤務する保健医療従事者の育成と質の向上、ひいては地方における保健医療サービスの向上に大きく寄与するものである。

さらに、地方における保健医療サービスの向上は、国民の80%が居住する地方部の生活水準の向上、都市部と地方部の格差の是正、ひいては貧困の削減にもつながるものと期待される。

添 付 資 料

添付資料

| | | |
|-----|-------------------------------------|-------|
| 1. | 調査団員氏名 | A1-1 |
| 2. | 調査日程 | A2-1 |
| 3. | 相手国関係者リスト | A3-1 |
| 4. | 収集資料リスト | A4-1 |
| 5. | Minutes of Discussions (2003.10.06) | A5-1 |
| 6. | Minutes of Discussions (2004.1.29) | A6-1 |
| 7. | 基本設計概要表 | A7-1 |
| 8. | 「ラ」国側負担工事内容 | A8-1 |
| 9. | 保健省・県保健局発行の書類 | A9-1 |
| 10. | UNESCO 世界遺産事務所発行の書類 | A10-1 |
| 11. | WHO の供与機材リスト | A11-1 |
| 12. | 保健省及び傘下の各種機関・医療施設の主な職員配置 | A12-1 |
| 13. | 看護職の需給バランス | A13-1 |
| 14. | 保健学校卒業生の就職先 | A14-1 |
| 15. | 看護職雇用実績及び将来計画 | A15-1 |
| 16. | 人口分布及び保健医療施設の分析からの計画学生数の検証 | A16-1 |
| 17. | 土地の登記書類 | A17-1 |
| 18. | 年間降雨量及び年間気温データ | A18-1 |
| 19. | ポーリングデータ | A19-1 |
| 20. | 既存施設の診断結果 | A20-1 |
| 21. | 施設配置計画検討図 | A21-1 |
| 22. | Criteria and Quantity of Equipment | A22-1 |
| 23. | 計画機材及び数量 | A23-1 |
| 24. | 機材設置場所一覧 | A24-1 |
| 25. | 当該国の社会経済状況（国別基本情報抜粋） | A25-1 |

**Member List of Basic Design Study
on the Project for Strengthening Regional Education and Training Institutions for Health Workers
in Lao People's Democratic Republic**

ラオス国保健医療訓練施設整備計画 基本設計調査 団員名簿

| | | |
|-----|--|---|
| 1. | Mr. Tamotsu IKEZAKI Team Leader 池崎 保 団長 | Director, Second Project Management Div., Grant Aid Management Dept., Japan International Cooperation Agency (JICA) 国際協力機構 無償資金協力部 業務第二課 |
| 2. | Ms. Tomoko KUSAMA Technical Advisor 草間 朋子 技術参与 | President, Oita University of Nursing and Health Sciences 大分県立看護科学大学 学長 |
| 3. | Mr. Yoshimasa TAKEMURA Project Coordinator 武村 勝将 計画管理 | Second Project Management Div., Grant Aid Management Dept., Japan International Cooperation Agency (JICA) 国際協力機構 無償資金協力部 業務第二課 職員 |
| 4. | Mr. Takatsugu SHIMADA Chief Consultants / Architect Planner I / Facilities & Utilities Planner 島田 隆次 業務主任/建築計画 I /設備計画 | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィック コンサルタンツインターナショナル |
| 5. | Ms. Naomi IMASE Health Worker Education & Training Planner / Operation & Maintenance Planner 今瀬 直美 医療従事者育成計画/運営維持計画 | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィック コンサルタンツインターナショナル |
| 6. | Ms. Yuko SASA Architect Planner II 佐々 優子 建築計画 II | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィック コンサルタンツインターナショナル |
| 7. | Mr. Yuichi IMASATO Equipment Planner I 今里 悠一 機材計画 I | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィック コンサルタンツインターナショナル |
| 8. | Ms. Masako SUGITA Equipment Planner II 杉田 雅子 機材計画 II | Medical Engineering & Planning Co., Ltd. 株式会社 エムイー企画 |
| 9. | Mr. Takayuki YONEMARU Procurement & Construction Management Planner / Cost Estimator 米丸 孝行 調達計画/積算/施工計画 | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィック コンサルタンツインターナショナル |
| 10. | Mr. Tomoki MIYANO Coordinator / Architect Planner III 宮野 智希 業務調整/建築計画 III | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィック コンサルタンツインターナショナル |

**Member List of Draft Report Explanation Study
on the Project for Strengthening Regional Education and Training Institutions for Health Workers
in Lao People's Democratic Republic**

ラオス国保健医療訓練施設整備計画 基本設計概要説明調査 団員名簿

| | | |
|----|--|--|
| 1. | Mr. Shuichi IKEDA Team Leader 池田 修一 団長 | Deputy Resident Representative JICA Laos Office 国際協力機構 ラオス事務所 次長 |
| 2. | Mr. Takatsugu SHIMADA Chief Consultants / Architect Planner I / Facilities & Utilities Planner 島田 隆次 業務主任／建築計画 I ／設備計画 | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル |
| 3. | Ms. Naomi IMASE Health Worker Education & Training Planner / Operation & Maintenance Planner 今瀬 直美 医療従事者育成計画／運営維持計画 | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル |
| 4. | Ms. Yuko SASA Architect Planner II 佐々 優子 建築計画 II | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル |
| 5. | Mr. Yuichi IMASATO Equipment Planner I 今里 悠一 機材計画 I | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル |
| 6. | Mr. Takayuki YONEMARU Procurement & Construction Management Planner / Cost Estimator 米丸 孝行 調達計画／積算／施工計画 | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル |
| 7. | Mr. Tomoki MIYANO Coordinator / Architect Planner III 宮野 智希 業務調整／建築計画 III | Pacific Consultants International (PCI) 株式会社 パシフィックコンサルタンツインターナショナル |

Site Survey Schedule of Basic Design Study
on the Project for Strengthening Regional Education and Training Institutions for Health Workers
in Lao People's Democratic Republic
ラオス国保健医療訓練施設整備計画 基本設計調査 現地調査日程
(2003年8月28日～10月8日)

| | |
|--------------|--|
| Remarks | (JICA) A: 池崎団長, B: 草間氏, C: 武村氏, (コンサルタント) D: 島田, E: 今瀬, F: 佐々, G: 今里, H: 杉田, I: 米丸, J: 宮野 |
| Abbreviation | NRT: 成田, BKK: Bangkok, VTE: Vientiane, PON: Phone Hong, LPQ: Luangphabang ODY: Oudomxay, KAM: Khammuane, ZVK: Savannakhet, PKZ: Champasak |

| No | Date | Member and Movement | Activity |
|-----|------------------|--|---|
| 1. | Aug. 28 (Thu) | <u>NRT11:05→BKK15:30(JL717)</u> D, E, F, G, J | |
| 2. | Aug. 29 (Fri) | <u>BKK08:20→VTE09:30(TG690)</u> D, E, F, G, J | 11:00-JICA ラオス事務所表敬 14:30-在ラオス日本大使館表敬 15:30-JICA ラオス事務所 打合せ |
| 3. | Aug. 30 (Sat) | <u>VTE→PON</u> D, E, F, G, J <u>PON→VTE</u> | 09:30-ヴィエンチャン県病院視察 |
| 4. | Aug. 31 (Sun) | D, E, F, G, J | 団内協議 |
| 5. | Sep. 1 (Mon) | D, E, F, G, J | 10:00-医療技術短期大学 (CHT) 視察、協議 13:15-セタティラート病院視察 14:10-保健省表敬 協議 |
| 6. | Sep. 2 (Tue) | <u>VTE10:20→LPQ11:00(QV635)</u> D, E, F, G, J | 11:45-ルアンプラバン県保健局表敬、協議 13:30-ルアンプラバン保健学校視察、協議 15:15-ルアンプラバン県病院視察 |
| 7. | Sep. 3 (Wed) | D, E, F, G, J J | 08:30-ルアンプラバン保健学校協議 09:00-ルアンプラバン UNESCO 世界遺産事務所協議 |
| 8. | Sep. 4 (Thu) | <u>LPQ→ODY</u> D, E, F, G, J | 08:00-ウドムサイ県保健局表敬、協議 09:00-ウドムサイ保健学校視察、協議 11:00-ウドムサイ県病院視察 |
| 9. | Sep. 5 (Fri) | <u>ODY→LPQ</u> <u>LPQ15:10→VTE15:40(QV645)</u> D, E, F, G, J | 団内協議 |
| 10. | Sep. 6 (Sat) | D, F, J D, E, F, G, J | 10:00-保健省 DPB 協議 団内協議 |
| 11. | Sep. 7 (Sun) | <u>VTE→KAM</u> D, E, F, G, J | |
| 12. | Sep. 8 (Mon) | D, E, F, G, J | 08:00-カムアン県保健局表敬、視察 08:50-カムアン保健学校視察、表敬 11:10-カムアン県病院視察 13:50-カムアン保健学校協議 |
| | | H, I <u>NRT11:05→BKK15:30(JL717)</u> | |

| No | Date | Member and Movement | Activity |
|-----|------------------|--|--|
| 13. | Sep. 9 (Tue) | D, E, F, G, J <u>KAM→ZVK</u> <u>BKK08:20→VTE09:30(TG690)</u> H, I | 08:00-カムアン看護学校協議 11:00-資機材調達調査 |
| 14. | Sep. 10 (Wed) | D, E, F, G, J H, I | 08:00-サバナケット県保健局表敬、協議 08:55-サバナケット保健学校視察、協議 11:10-サバナケット県病院視察 13:50-サバナケット保健学校協議 09:00-資機材調達事情調査 |
| 15. | Sep. 11 (Thu) | D, E, F, G, J <u>ZVK→PKZ</u> <u>VTE06:20→PKZ08:25(QV201)</u> H, I | 08:00-サバナケット保健学校協議 09:00-チャンパサック保健学校調査 |
| 16. | Sep. 12 (Fri) | D, E, F, G, J H, I <u>PKZ→ZVK</u> | 08:00-チャンパサック県保健局表敬、協議 09:00-チャンパサック保健学校視察、協議 11:00-チャンパサック県病院視察 13:30-チャンパサック保健学校協議 08:00-チャンパサック保健学校調査 |
| 17. | Sep. 13 (Sat) | D, E, F, G, J <u>PKZ17:05→VTE18:20(QV522)</u> H, I <u>ZVK→KAM</u> | 08:00-チャンパサック保健学校協議 08:00-サバナケット保健学校調査 |
| 18. | Sep. 14 (Sun) | D, E, F, G, J <u>KAM→VTE</u> H, I | 団内協議 |
| 19. | Sep. 15 (Mon) | D, E, F, G, J H, I | 09:00-マホソット病院視察 10:30-WB 協議 15:00-医療技術短期大学協議 16:30-JICA 専門家と協議 資料作成 09:00-資機材調達事情調査 |
| 20. | Sep. 16 (Tue) | D, E, F, G, J, I D, E, F, G, J, H, I H | 09:10-保健省協議 13:40-JICA ラオス事務所調査中間報告 09:00-資機材調達調査 |
| 21. | Sep. 17 (Wed) | D, E, F, G, J H, I | 13:30-医療技術短期大学 |
| 22. | Sep. 18 (Thu) | D, E, F, G, J H, I | 09:30-保健省協議 14:00-保健省協議 09:00-資機材調達事情調査 |
| 23. | Sep. 19 (Fri) | D, E, F, G E, F J H, I | 14:00-ADB 協議 15:30-保健省協議 14:00-建築等規制調査 09:00-資機材調達事情調査 |
| 24. | Sep. 20 (Sat) | B <u>NRT11:05→BKK15:30(JL717)</u> D, E, F, G, H, I, J | 団内協議 |
| 25. | Sep. 21 (Sun) | B <u>BKK08:20→VTE09:30(TG690)</u> D, E, F, G, H, I, J | 団内協議 |

| No | Date | Member and Movement | Activity |
|-----|------------------|--|--|
| 26. | Sep. 22 (Mon) | B, D, E, F, G, I, J B, D, J <u>VTE14:00→LPB14:30(QV103)</u> <u>LPQ→ODY</u> H | 09:00-JICA ラオス事務所表敬、調査中間報告 10:00-在ラオス日本大使館表敬、調査中間報告 11:15-マホソット病院視察 09:00-機材調達事情調査 |
| 27. | Sep. 23 (Tue) | B, D, E, F, G, I, J B H | 08:30-ウドムサイ保健学校協議 13:00-ウドムサイ県病院視察 09:00-機材調達事情調査 |
| 28. | Sep. 24 (Wed) | <u>ODY→LPQ</u> B, D, E, F, G, I, J B H | AM- ウドムサイ県ヘルスセンター視察 14:00-ルアンプラバン保健学校協議 16:00-ルアンプラバン県病院視察 09:00-機材調達事情調査 |
| 29. | Sep. 25 (Thu) | B, D, E, F, G, I, J B, D, F, J <u>LPQ15:00→VTE16:00(QV104)</u> D J H | 08:00-ルアンプラバン保健学校協議 11:00-UNESCO 世界遺産事務所協議 16:30-医療技術短期大学協議 16:30-保健局協議 09:00-機材調達事情調査 |
| 30. | Sep. 26 (Fri) | <u>NRT11:05→BKK15:30(JL717)</u> C <u>VTE→KAM</u> B, D, E, F, G, J B H, I | AM- カムアン県ヘルスセンター視察 13:50-カムアン県保健局協議 14:30-カムアン保健学校協議 15:30-カムアン県病院視察 09:00-資機材調達事情調査 |
| 31. | Sep. 27 (Sat) | <u>BKK08:20→VTE09:30(TG690)</u> <u>VTE12:30→PKZ13:45(Q512)</u> <u>PKZ→ZVK</u> C B, D, E, F, G, J <u>KAM→ZVK</u> B, D, E, F, G, J H <u>VTE→KAM</u> I <u>KAM→ZVK</u> | 08:30-カムアン保健学校協議 16:00-サバナケット保健学校調査 資料整理 12:00-カムアン保健学校調査 16:00-サバナケット保健学校調査 |
| 32. | Sep. 28 (Sun) | B, C, D, E, F, G, J, H <u>VTE10:30→BKK11:35(TG691)</u> <u>ZVK→KAM</u> I <u>KAM→VTE</u> | 団内協議 資料整理 AM- カムアン保健学校調査 |
| 33. | Sep. 29 (Mon) | B, C, D, E, F, G, J B, C H I | 08:00-サバナケット県保健局協議 09:00-サバナケット保健学校協議 13:00-サバナケット県病院視察 09:00-機材調達事情調査 09:00-資材調達事情調査 |

| No | Date | Member and Movement | Activity |
|-----|------------------|-----------------------------------|---|
| 34. | Sep. 30 (Tue) | <u>ZVK→PKZ</u> | |
| | | B, C, D, E, F, G, J | AM- コンセドン郡病院視察 14:00-チャンパサック県保健局協議 15:10-チャンパサック保健学校 |
| | | H | 09:00-機材調達事情調査 |
| | | I | 09:00-資材調達事情調査 |
| 35. | Oct. 1 (Wed) | <u>NRT11:05→BKK15:30(JL717)</u> | |
| | | A | |
| | | B, C, D, E, F, G, J | 08:00-チャンパサック保健学校協議 |
| | | B, C | 08:30-チャンパサック県病院視察 |
| | | <u>PKZ17:05→VTE18:20(QV522)</u> | |
| | | H | 09:00-機材調達事情調査 |
| | | I | 09:00-資材調達事情調査 |
| 36. | Oct. 2 (Thu) | <u>BKK08:20→VTE09:30(TG690)</u> | |
| | | E, F | 10:00-ADB 協議 |
| | | A, B, C, D | 11:00-保健大臣表敬 |
| | | A, B, C, D, E, F, G, J | 13:30-JICA ラオス事務所表敬、中間報告 14:30-在ラオス日本大使館表敬、中間報告 15:30-保健省協議 |
| | | H | |
| | | <u>→NRT06:15</u> | |
| | | I | 09:00-資材調達事情調査 |
| 37. | Oct. 3 (Fri) | D, E, F, J | 08:30-保健省協議 |
| | | A, B, C, G | 09:00-医療技術短期大学視察 |
| | | A, B, C, D, E, F, G, J | 13:30-保健省 MD 協議 |
| | | <u>VTE10:30→BKK11:35(TG691)</u> | |
| | | <u>BKK22:15 (JL718)→</u> | |
| | | I | |
| 38. | Oct. 4 (Sat) | A, B, C, D, F, G, J | 団内協議 |
| | | <u>VTE10:30→BKK11:35(TG691)</u> | |
| | | E | |
| | | <u>→NRT06:15</u> | |
| | | I | |
| 39. | Oct. 5 (Sun) | A, B, C, D, F, G, J | 団内協議 |
| | | E | |
| | | <u>BKK08:40 (JL708)→→NRT16:40</u> | |
| 40. | Oct. 6 (Mon) | A, B, C, D, F, G, J | 11:00-MD 協議、調印 14:00-在ラオス日本大使館調査報告 15:00-JICA ラオス事務所調査報告 |
| | | | |
| | | | |
| 41. | Oct. 7 (Tue) | A, B, C, D, F, G, J | |
| | | <u>VTE10:30→BKK11:35(TG691)</u> | |
| | | <u>BKK22:15 (JL718)→</u> | |
| 42. | Oct. 8 (Wed) | A, B, C, D, F, G, J | |
| | | <u>→NRT06:15</u> | |

**Site Survey Schedule of Basic Design Study
on the Project for Strengthening Regional Education and Training Institutions for Health Workers
in Lao People's Democratic Republic**

ラオス国保健医療訓練施設整備計画 基本設計概要説明調査 現地調査日程

(2003年1月11日～1月31日)

| | |
|--------------|--|
| Remarks | (JICA) A: 池田団長、 (コンサルタント) B: 島田、 C: 今瀬、 D: 佐々、 E: 今里、 F: 米丸、 G: 宮野 |
| Abbreviation | NRT: 成田、 BKK: Bangkok、 VTE: Vientiane、 PON: Phone Hong、 LPQ: Luangphabang ODY: Oudomxay、 KAM: Khammuane、 ZVK: Savannakhet、 PKZ: Champasak |

| No | Date | Member, Movement, | Activity |
|-----|------------------|---|---|
| 1. | Jan. 11 (Sun) | B, D, E, G: NRT10:55→BKK15:55(JL717) | |
| 2. | Jan. 12 (Mon) | B, D, E, G: BKK08:15→VTE09:25(TG690) A, B, D, E, G: B, D, E, G: B, D, E, G: | 11:00-JICA ラオス事務所表敬 15:30-保健省組織人事局表敬 17:15-在ラオス日本大使館表敬 |
| 3. | Jan. 13 (Tue) | B, E: D, G: D, E, G: A, B, D, E: B, D, E, G: VTE16:30→LPB17:10(QV103) | 08:30-CHT 基本設計概要説明、協議 08:30-測量会社打ち合わせ 11:00-情報文化省協議 13:30-保健省基本設計概要説明、協議 |
| 4. | Jan. 14 (Wed) | B, D, E: B, D, E: LPB→ODY B, D, E: | 08:00-ルアンプラバン UNESCO 世界遺産事務所協議 14:00-ルアンプラバン保健学校基本設計概要説明、協議 |
| 5. | Jan. 15 (Thu) | B, D, E: B, D, E: ODY→LPB | 08:30-ウドムサイ保健学校基本設計概要説明、協議 |
| 6. | Jan. 16 (Fri) | B, D, E, G: | 08:30-ルアンプラバン保健学校基本設計概要説明、協議 13:30-ルアンプラバン UNESCO 世界遺産事務所協議 |
| 7. | Jan. 17 (Sat) | B, D, E, G: B, D, E, G: LPB19:10→VTE19:50(QV106) B: NRT10:55→BKK15:55(JL717) | 08:30-ルアンプラバン保健学校基本設計概要説明、協議 |
| 8. | Jan. 18 (Sun) | C: BKK08:15→VTE09:25(TG690) B, C, D, E, G: B, D, E, G: VTE→KAM | 団内協議 |
| 9. | Jan. 19 (Mon) | B, D, E, G: C: F: NRT10:55→BKK15:55(JL717) F: | 08:30-カムアン保健学校基本設計概要説明、協議 13:30-保健省協議 調達事情調査 |
| 10. | Jan. 20 (Tue) | B, D, E, G: B, D, E, G: KAM→ZVK C: F: BKK08:15→VTE09:25(TG690) C, F: | 08:30-カムアン保健学校基本設計概要説明、協議 09:15-CHT 協議 団内協議 |
| 11. | Jan. 21 (Wed) | B, D, E, G: F: | 08:30-サバナケット保健学校基本設計概要説明、協議 調達事情調査 |

| No | Date | Member, Movement, | Activity |
|-----|------------------|---|---|
| 12. | Jan. 22 (Thu) | B, D, E, G: B, D, E, G:ZVK→PKZ C: F: | 08:30-サバナケット保健学校基本設計概要説明、協議 08:30-WHO 協議 10:30-WB 協議 13:30-ADB 協議 調達事情調査 |
| 13. | Jan. 23 (Fri) | B, D, E, G: C: F: | 08:30-チャンパサック保健学校基本設計概要説明、協議 13:00-Lux-Dev.協議 調達事情調査 |
| 14. | Jan. 24 (Sat) | B, D, E, G: PKZ11:40→VTE12:50(QV521) B, C, D, E, F, G: | 団内協議 |
| 15. | Jan. 25 (Sun) | B, C, D, E, F, G: | 団内協議 |
| 16. | Jan. 26 (Mon) | A, B, C, D, E, G B, C, D, E, G F: <u>VTE10:30→11:35 BKK(TG691)</u> | 09:00-JICA ラオス事務所中間報告 14:00-保健省組織人事局協議 調達事情調査 |
| 17. | Jan. 27 (Tue) | A, B, C, D, E, G B, D, E, G A, B, C, D, E, G F: | 08:30-保健省 MD 協議 11:30-情報文化省協議 13:30-教育省 UNESCO 委員会協議 16:40-在ラオス日本大使館中間報告 調達事情調査 |
| 18. | Jan. 28 (Wed) | A, B, C, D, E, G B, C, D, E F: | 09:00-保健省 MD 協議 15:00-WHO 協議 調達事情調査 |
| 19. | Jan. 29 (Thu) | A, B, D, E, G C: <u>VTE10:30→11:35 BKK(TG691)</u> F: <u>BKK 08:30→ 16:10 NRT(JL708)</u> | 09:30-MD 調印 14:00-JICA ラオス事務所調査報告 |
| 20. | Jan. 30 (Fri) | B, D, E, G: <u>VTE10:30→11:35 BKK(TG691)</u> C: <u>BKK 08:30→ 16:10 NRT(JL708)</u> | |
| 21. | Jan. 31 (Sat) | B, D, E, G: <u>BKK 08:30→ 16:10 NRT(JL708)</u> | |

ラオス国 保健医療訓練施設整備計画 基本設計調査 (2003年8月28日～10月8日)

面談者リスト

1. 在ラオス日本大使館

川田 一徳 : 一等書記官
平山 周作 : 一等書記官
肆矢 鴻一 : 公使

2. 在ラオスJICA事務所

西脇 英隆 : 所長
池田 修一 : 次長
衣斐 友美 : 所員
黒沢 まりこ : Health Adviser
三好 知明 : 専門家 (保健省)
杉浦 康夫 : 専門家 (Kids Smile Project)
加藤 紀子 : 専門家 (Kids Smile Project)
高橋 武彦 : 専門家 (セタティラート病院)
下地 孝子 : 専門家 (セタティラート病院)
岩田 和子 : 専門家 (セタティラート病院)
広江 尚司 : SV (医療技術短期大学)
福田 正恵 : SV (医療技術短期大学)
村方 千鶴 : SV (医療技術短期大学)
徳永 年子 : SV (医療技術短期大学)
小原澤 榮子 : SV (国立マホソット病院)
近江 秀幸 : SV (医療機器サービスセンター)
大河 幸弘 : SV (医療機器サービスセンター)
川口 伸広 : JOCV (ルアンプラバン県病院 臨床検査技師)
黒田 千加 : JOCV (ルアンプラバン県病院 看護師)
山本 明子 : JOCV (ウドムサイ県病院 看護師)
西村 有永 : JOCV (チャンパサック県病院 看護師)
米川 明美 : JOCV (カムアン県病院 看護師)
松崎 玉枝 : JOCV (サバナケット県病院 臨床検査技師)

3. 保健省

Dr. Ponmek Dalalay : Minister
Dr. Bounkuang Phijit : Vice Minister

4. 保健省 Cabinet

Ms. Chanthanom Manodham : Director
Mr. Bounfeng Phoummalaysith : Deputy Director
Dr. Nao Butta : Deputy Director
Dr. Chansaly : Secretary
Dr. Khamphong Phommachauh : Technical Staff (Foreign Relation Division)
Mr. Phoumy Bodhisane : Chief Division of Health Personnel
Dr. Bounnhem : Management Officer
Dr. Prasongsidh C. Boupha : Director (PHC & Rural Development Div.)

5. 保健省 Department of Health Organization and Personnel
 - Dr. Chanpeng Viravong : Director
 - Dr. Phouthone Vangkonevilay : Deputy Director
 - Dr. Loun : Head of Training and Education Division
 - Dr. Sthaphone Insisienhay : Deputy Head of Training and Education Division
 - Dr. Nouansy K. : Staff of Training and Education Division

6. 保健省 Department of Planning and Budgeting
 - Dr. Vougsanith : Deputy Director
 - Dr. Khamphet Manivong : Deputy Director
 - Mr. Bounsathien Phimmasenh : Deputy Chief of Health Properties (Management Division)
 - Mr. Mayphone Soukvisay : Health Properties (Management Division)

7. World Bank (Health system reform and malaria control project)
 - Dr. Sisamone Keola : Director
 - Dr. Bounpheng Philavong : Deputy Director
 - Mr. Peter John Miller : Project Facilitator

8. World Health Organization
 - Dr. Dean A. Shuey : Programme Management Officer, Health System

9. ADB (Primary Health Care Expansion Project)
 - Mr. Thomas D'Agnes : Chief Technical Adviser

10. Belgian Technical Cooperation
 - Dr. Vincent Vercruysse : Resident Representative

11. ヴィエンチャン特別市 設備関連機関
 - Mr. Sisouk : MCTPC Tel: 020-55087266
 - Mr. Vanholy : Deputy manager of technical Dep., EDL
 - Mr. Khamseam : Deputy manager, EDL
 - Mr. Khamfan : Water Supply
 - Ms. Kesone : Administration Div.

12. 医療技術短期大学 College of Health Technology
 - Dr. Tanoi Sritthirath : Director
 - Dr. Somchit Bupha : Deputy Director
 - Dr. Souphaline Intharath : Deputy Director
 - Mr. Souksavanh Phanpaseuth : Deputy Chief of Nursing
 - Ms. Douangehanh Ounnaroth : Chief of Finance Division
 - Mr. Somchay : Staff of Finance Division

13. ヴィエンチャン県病院 Vientiane Provincial Hospital
 - Ms. Burnice : Nurse Adviser (Luxembourg Development)
 - Ms. Nongled Wuddhipuichen : Nurse Tutor (Luxembourg Development)
 - Ms. Phaneshey : Nurse
 - Ms. Khamphan : Nurse

14. ルアンプラバン県保健局 Luangprabang Provincial Health Office
 Dr. Ammone : Director
15. ルアンプラバン県病院 Luangprabang Provincial Hospital
 Dr. Chanthone : Vice Director
16. ルアンプラバン保健学校 Luangprabang Public Health School
 Dr. Sengkeo Latanevongsa : Director
 Dr. Oubomh : Vice Director
 Mr. Vathavon Mmorota : Chief of Medical Training Division
 Mr. Souvalith : English Teacher
 Ms. Seunmanee : English Teacher
17. ルアンプラバンUNESCO世界遺産事務所 Luangprabang UNESCO World Heritage Site
 Mr. Ovane Sirisack : Director
 Mr. Saveuy Silavanh : Architect (Architecture and Urbanism Division)
 Mr. Emmanuel Pouille : Chief Technical Adviser
 Mr. Yushi Kawaguchi : Technical Adviser
 Mr. Daovanh Sirivong : Urban Development Administration Authority
18. ウドムサイ県保健局 Oudomxay Provincial Health Office
 Dr. Khamphang : Director
 Mr. Bounleu Sisavanh : Deputy Director
 Dr. Khamphiau : Deputy Director
19. ウドムサイ県病院 Oudomxay Provincial Hospital
 Dr. Thong Phet : Director
20. ウドムサイ保健学校 Oudomxay Public Health School
 Dr. Kheun Panyalay : Director
 Mr. Khamphai : English Teacher
 Mr. Khamphet Kehovoiy : Director of Urban and Planning (DCTPC)
21. カムアン県保健局 Khammuane Provincial Health Office
 Dr. Choum Chomchaleune : Director
 Mr. Khankeo : Chief of Administration Office
22. カムアン県病院 Khammuane Provincial Hospital
 Dr. Thonelakhauh Xaypangna : Director
 Dr. Phasouk : Vice Director
 Ms. Khankeo : Head Nurse
23. カムアン保健学校 Khammuane Public Health School
 Dr. Bounty Sisomsack : Director
 Mr. Somphet Souvanmalasy : Deputy Director
 Ms. Bounma : Deputy Director
 Mr. Noy Phathana : Water Supply Thakhek District
 Mr. Xongsinh Souvannarath : Electric Khammuane

24. サバナケット県保健局 Savannakhet Provincial Health Office
 Dr. Panom Phongmany : Deputy Director
 Dr. Vath Vongsouth : Deputy Director
 Dr. Khamkeo : Technical Officer
25. サバナケット県病院 Savannakhet Provincial Hospital
 Dr. Phokhem Phosithideth : Director
 Dr. Outhone : Deputy Director
 Dr. Soudamany : Doctor
 Ms. Nonemany : Nurse
26. サバナケット保健学校 Savannakhet Public Health School
 Ms. Sounthone : Director
 Mr. Khamphou Xayaphet : Deputy Director
 Ms. Bouabay Xoumphonphackdy : Deputy Director
 Mr. Nikhom Madvongsa : Electrician EDL
 Mr. Phandola Kualmouangchane : Nampapa Water Supply Company
 Mr. Inpanh Khamviseth : Architect (PHO)
27. チャンパサック県保健局 Champasak Provincial Health Office
 Dr. Toukham : Director
 Dr. Theun Khamkeo : Deputy Director
 Dr. Bouala Khamphasak : Organization Department
 Dr. Syphauh : Head Office
28. チャンパサック県病院 Champasak Provincial Hospital
 : Director
 Dr. Pradith : Deputy Director
 Dr. Keososouphewh : Deputy Director
 Dr. Phosaka : Doctor
 Ms. Noukone : Chief of Nursing Care
 Ms. Phoxay : Chief of Administration
29. チャンパサック保健学校 Tel:031-212141
 Dr. Sipaseuth : Director
 Dr. Souphanh : Deputy Director
 Dr. Khamphet : Chief of Academic Administration

ラオス国 保健医療訓練施設整備計画 基本設計概要説明調査 (2004年1月11日～1月31日)

面談者リスト

30. 在ラオス日本大使館
平山 周作 : 一等書記官
川田 一徳 : 一等書記官
31. 在ラオスJICA事務所
西脇 英隆 : 所長
池田 修一 : 次長
小川 美織 : Project Formulation Adviser
三好 知明 : 専門家 (Ministry of Health)
望月 経子 : 専門家 (Ministry of Health)
黒熊 利隆 : SV (College of Health Technology)
井上 ミネ子 : SV (College of Health Technology)
橋本 英二 : SV (College of Health Technology)
坂本 修 : SV (College of Health Technology)
小原澤 榮子 : SV (国立マホソット病院)
近江 秀幸 : SV (医療機器サービスセンター)
川口 伸広 : JOCV (ルアンプラバン県病院 臨床検査技師)
黒田 千加 : JOCV (ルアンプラバン県病院 看護師)
山本 明子 : JOCV (ウドムサイ県病院 看護師)
米川 明美 : JOCV (カムアン県病院 看護師)
西村 有永 : JOCV (チャンパサック県病院 看護師)
大西 奈苗 : JOCV (チャンパサック県病院 看護師)
32. Ministry of Health, Cabinet
Ms. Chanthanom Manodham : Director
Dr. Khamphong Phommachauh : Technical Staff (Foreign Relation Division)
Ms. Khonphong : Technical Officer
33. Ministry of Health, Department of Health Organization and Personnel
Dr. Chanpeng Viravong : Director
Dr. Phouthone Vangkonevilay : Deputy Director
Dr. Ousy Phommalath : Deputy Director
Mr. Phoumy Bodhisane : Chief of Health Personnel Division
Mr. Bounnheme Ekkarat : Health Personnel Division
Ms. Phanthong Phousay : Staff Nurse
Ms. Kaythong Mahaphong : Staff Nurse
Ms. Nouansy Keovanpheng : Staff Nurse
34. Ministry of Health, Department of Planning and Budgeting
Mr. Bounsathien Phimmasenh : Deputy Chief of Health Properties (Management Division)
35. Ministry of Information and Culture, Department of Museum and Archaeology
Mr. Vounhom Chanthamat : Deputy Director
36. Ministry of Education, Lao National Committee for UNESCO
Mr. Heng Daovannary : Secretary General

37. Luangprabang UNESCO World Heritage Site Office (La Maison du Patrimoine)
 Ms. Manivone Thoummabouth : Deputy Director
 Mr. Saveuy Silavanh : Architect (Architecture and Urbanism Division)
 Mr. Yushi Kawaguchi : Technical Adviser
 Mr. Thongphilavanh : Engineer
38. World Bank
 Dr. Bounpheng Philavong : Deputy Director
39. World Health Organization
 Dr. Dean A. Shuey : Programme Management Officer, Health System
40. ADB
 Dr. Prasongsidh C. Bopha : National Project Director
41. Luc-Development S.A.
 Dr. Raja Chowdhry : International Project Coordinator
42. 医療技術短期大学 College of Health Technology
 Dr. Tanoi Srithirath : Director
 Dr. Souphaline Intharath : Deputy Director
 Dr. Chanheam Songravong : Deputy Director
 Ms Hongsamouth : Staff, Nursing section
 Mr. Bonahong : Vice chief, Rehabilitation section
 Mr. Souksavanh Phanpaseuth : Deputy Chief of Nursing
43. ウドムサイ県保健局 Oudomxay Provincial Health Office
 Dr. Piew Tairbouavorne : Deputy Director
 Mr. Chantha Thionkeo : Chief of Administration Section
44. ウドムサイ保健学校 Oudomxay Public Health School
 Dr. Kheun Panyalay : Director
 Ms. Souphaphone Thamanong : Chief of Administration
 Ms. Chansavanh : Chief of Technical Section
45. ルアンプラバン保健学校 Luangprabang Public Health School
 Dr. Sengkeo Latanavongsa : Director
 Dr. Oubomh : Deputy Director
 Mr. Vathavon Mmorota : Chief of Medical Training Division
 Mr. Souvalith : English Teacher
46. カムアン保健学校 Khammuane Public Health School
 Dr. Bounty Sisomsack : Director
 Mr. Ketsaua Lassaeback : Deputy Director
 Ms. Bounma Kingsalath : Deputy Director
 Mr. Khankeo : Chief of Administration
 Mr. Souksavanh : Chief of Education

47. サバナケット保健学校 Savannakhet Public Health School

Ms. Sounthone Phothisave : Director
Mr. Khamphou Sayaphet : Deputy Director
Ms. Bouabay Soumphonphakdy : Deputy Director
Mr. Nakhonkham Seychauh : Education Office

48. チャンパサック保健学校

Dr. Sipaseuth Silaphat : Director
Ma. Souphanh Pltounsavath : Deputy Director
Ma. Bounkhane Khampho : Deputy Director

収集資料リスト

| 番号 | 名称 | 形態 印刷・図書・ CD等 | オリジナル コピー | 言語 | 収集先／発行機関 | 入手日 |
|-------------------------|--|---------------------|--------------|--------------|---|--------|
| 保健省・ヴィエンチャン特別市関連 | | | | | | |
| 1 | 保健省組織図 | プリント | コピー | 英語 | JICAラオス事務所 | 030829 |
| 2 | PHC ワーカーコース | 図書 | コピー | ラオ語 | MOH | |
| 3 | Allocation of Medical Equipment Supported by WHO | Letter | オリジナル | 英語 | MOH (DHOP) | 031006 |
| 4 | Regulation on the Monitoring and Control of Wastewater Discharge | 印刷 | コピー | 英語 | Science Technology and Environment Organization | 030919 |
| 5 | Summary of Nursing Management Workshop | 図書 | コピー | 英語 ラオ語 | Committee of Workshop | |
| 6 | National Poverty Eradication Programme (NPEP) | PDF ファイル | コピー | 英語 | Lao PDR Government | |
| 7 | ヴィエンチャン水道料金表 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Vientiane Water Supply | 030925 |
| 8 | ヴィエンチャン水道工事基準 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Vientiane Water Supply | 030925 |
| 9 | 医療技術短期大学新校舎設計図面 | 図書 | コピー | ラオ語 | MOH (DPB) | 030906 |
| 10 | Electric Distrbution Manual Part A, B(計5冊) | 図書 | コピー | 英語 | Electricite du Laos | 030919 |
| 11 | ヴィエンチャン特別市建築基準 | 図書 | コピー | ラオ語 | MCTPC | |
| ウドムサイ関連 | | | | | | |
| 12 | ウドムサイ保健学校PHCワーカーコース病院実習概要一式 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Oudomxay PHS | 030904 |
| 13 | ウドムサイ保健学校土地登記書類 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Oudomxay Land Authority | 030904 |
| 14 | ウドムサイ保健学校拡張計画 Application for Japanese Grant Aid | 図書 | コピー | 英語 | Oudomxay PHS | |
| 15 | 新ウドムサイ県病院、保健学校Dormitory設計図面 I II (計2冊) | 図書 | コピー | 英語 | MOH (DPB) | 030906 |
| 16 | ウドムサイ県病院統計資料 | 図書 | コピー | ラオ語 | Oudomxay Provincial Hospital | 030904 |
| 17 | ウドムサイ県建築基準 | 図書 | コピー | ラオ語 | DCTPC | |
| ルアンプラバン関連 | | | | | | |
| 18 | ルアンプラバン世界遺産保護地区建築基準 | 印刷 | コピー | ラオ語 フランス語 | Luangprabang UNESCO World Heritage Site | 030903 |
| 19 | ルアンプラバン世界遺産保護地区建築基準 | CD | オリジナル | ラオ語 フランス語 | Luangprabang UNESCO World Heritage Site | 030903 |
| 20 | ルアンプラバン世界遺産保護地区建築推奨例 | 印刷 | コピー | ラオ語 フランス語 | Luangprabang UNESCO World Heritage Site | 030903 |
| 21 | ルアンプラバン保健学校看護科訓練8週間コース | 印刷 | コピー | ラオ語 (英訳有) | Luangprabang PHS | 030902 |

| 番号 | 名称 | 形態 印刷・図書・ CD等 | オリジナル コピー | 言語 | 収集先／発行機関 | 入手日 |
|------------------|------------------------------|---------------------|--------------|-----|----------------------------------|--------|
| 22 | ルアンプラバン保健学校看護科地域実習概要一式 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Luangprabang PHS | 030902 |
| 23 | ルアンプラバン保健学校土地登記書類 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Luangprabang Land Authority | |
| 24 | ルアンプラバン保健学校図面 | 図書 | コピー | ラオ語 | MOH (DPB) | 030925 |
| 25 | ルアンプラバン県病院統計資料 | 図書 | コピー | ラオ語 | Luangprabang Provincial Hospital | |
| カムアン関連 | | | | | | |
| 26 | カムアン県病院統計資料 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Khammuane Provincial Hospital | 030908 |
| 27 | カムアン県電気料金表 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Khammuane EDL | 030908 |
| 28 | カムアン県水道料金表 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Khammuane Water Supply | 030908 |
| 29 | カムアン保健学校看護科2.5年コースコンピュータ科目概要 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Khammuane PHS | 030908 |
| 30 | カムアン保健学校PHCワーカーコース実施計画 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Khammuane PHS | 030908 |
| 31 | カムアン保健学校土地登記書類 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Khammuane Land Authority | |
| サバナケット関連 | | | | | | |
| 32 | サバナケット保健学校土地登記書類 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Savannakhet Land Authority | |
| チャンパサック関連 | | | | | | |
| 33 | チャンパサック保健学校土地登記書類 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Champasak Land Authority | |
| 34 | チャンパサック県水道料金表 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Champasak Water Supply | 030912 |
| 35 | チャンパサック保健学校建設計画抜粋(住友) | 印刷 | コピー | 英語 | Champasak PHS | 030912 |
| 36 | チャンパサック保健学校看護科2.5年コース実施計画 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Champasak PHS | 030912 |
| 37 | チャンパサック保健学校看護科2.5年コースカリキュラム | 印刷 | コピー | ラオ語 | Champasak PHS | 030912 |
| 38 | チャンパサック保健学校病院実習概要一式 | 印刷 | コピー | ラオ語 | Champasak PHS | |